

本年度教育活動の中から

今年度も残すところあと 1 ヶ月となりました。25 年度の教育活動で力を入れて取り組んできたものの中から、以下の 2 点について振り返ってみたいと思います。

○授業づくり

私たちは、子どもたちが課題意識を持って自ら考え、その考えを発表し合って互いに高め合うような授業を目指してきました。今年度は全教員が正規の「学習指導案」を立て、それを前日までに他の教職員に配布。「一人一研究授業」を実践しました。一人で複数の研究授業を行う教員もありました。教職員は極めて多忙な日々を送っていますが、「自分の時間」に食い込んででも何とかがんばりました。1 時間の授業を何時間もかけじっくり構想することで、子どもたち一人ひとりに改めて向き合い、子どもたちの学習状態を把握。「この子どもたちに、この教材を使ってどうすればよりよい学びを生み出せるか」を真剣に考えていたように思います。年齢や経験等により教員の技量もそれぞれ異なりますが、各人が自分の持ち味を発揮できる授業づくりに努めていました。ただちに結果に反映しにくい面もありますが、本校教職員の子どもと向き合う純で真摯な姿勢は、子どもの学ぶ態度や学力向上に着実につながっていると考えます。研究授業を観ている、発表の様子やその中身、学習プリントに書いている内容など、成長していることが明らかに見えるからです。このかわいい稗田の子どもたちの学力向上ため、私たち教職員は今後も可能な限り自己研鑽・研修に励みます。

○あいさつ

地域の方や保護者から「子どもたち、あいさつがよくできるようになってきましたね」と、プラスの評価を受けるようになりました。嬉しいことです。朝、校門に立っていると、確かに自分からあいさつできる子が増えてきていることが分かります。既にお気づきの方もたくさんいらっしゃるかと思いますが、校門でのあいさつには 5 年生のボランティア「あいさつ隊」と 4,5,6 年生のプログラム委員が毎朝、関わってきました。5 年生の子どもたちは昨年度ぐらいいからずっとあいさつ隊を自主的に引き受けています。本校児童だけでなく校門前を通過する方々に対しても（車に乗っている人にまで）あいさつをしています。自然に「おはようございます」の言葉が出るという感じです。あいさつは習慣のものです。身につけば無理に意識しなくても発せられるようになります。子どもたち自身によるこうしたあいさつ運動の継続によって稗田の子どもたちの「あいさつ力」は着実に強まっています。

朝だけでなく、昼の時間、校内においても「こんにちは」のあいさつをする子が増えました。「黙礼（目礼）」のできる子どもも少なからずいます。互いの心を通わす基本ツールとしてのあいさつは、社会に出ても生きて働く力になります。あいさつは本校教育の重点としてこれからも継続します。

今回は以上の 2 点に触れましたが、その他の教育活動につきましてもふりかえる機会があれば、お知らせいたします。皆様からご意見等ございましたらお聞かせください。いずれにしても本校教育に改善や成果があったとすれば、皆様のご理解とご協力のお蔭です。ありがとうございました。